

「ゆーちゃん。」

いつもこうよんでいた母方のじいちゃんが、今年の二月、とつぜんなくなりました。いつもわたしが、学校に行く時、じいちゃんの家の前を通ると、時間を合わせて外に出てきて、

「行ってらっしゃいませませ。」

とにっこりわらって見送ってくれました。

わたしが学校から帰ってくるころになるとじいちゃんは、草取りをしていることが多く、わたしは後ろからこっそり近づいて、

「わっ。」

と大きな声でびっくりさせると、

「やったな。」

と言いながら、わらってくれました。おばあちゃんとお母さんが夕ごはんの買い出しに行ってる時は、かならず、

「ゆーちゃん、アイス食べよう。」

とじいちゃんが言うので、二人でアイスを食べる学校の話や、じいちゃんが子どもころの話をしてるす番をしたり、手をつないでさん歩に出かけたりしました。

おもしろくて、やさしくて、友だちみたいだったじいちゃんと会えなくなってもう半年がすぎました。さびしい気持ちはあるけれど、そんな時はじいちゃんの家に行きます。そこには、じいちゃんが育てていた池のコイや、グラウンドゴルフをしていたしばふ、大きなハサミで切っていた木があるので、そこで自転車にのったりしながらじいちゃんを思い出しています。

そして、もう一つ。庭にある小屋の中にはられた、つがるべんで書かれた紙を見ると、じいちゃんらしいなあとわらってしまいます。日本のことわざのようなものもあれば、ユーモアたっぷりの言葉もあります。その中でもよくじいちゃんが言っていたのは、一つ、けがとべん当自分持ち。一つ、親のせつきょうおかずと思え。一つ、わがみをしねじって、人のいたみを知れ。だと、お母さんから教えてもらいました。この紙には書かれていないけれど、

「じいちゃんが好きな言葉は努力なんだよ。若い時に今の商売を始めて、ずっと走り続けてきたじいちゃんらしい言葉だよ。」

とお母さんが言いました。

朝、家を出て間もなく駅の向こうのおかを見ると、じいちゃんがねむるぼ地が遠くに見えます。わたしはいつもじいちゃんがねむっている方を見て、心の中で、「じいちゃん、行ってきます。今日も見てね。」と言って学校に向かいます。すると、

「はいよ。行ってらっしゃいませませ。」

とじいちゃんの声が聞こえてくる気がします。

天国のじいちゃん、元気になっていますか。じいちゃんの声や言葉を思い出しながら、みんながんばっているよ。これからも見守っていてね。